

日独国際研究教育プロジェクト(GAME)の参加者募集について

北海道大学グローバル COE(「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」)国際プロジェクト推進室では、海洋生態学の国際研究教育プロジェクトである GAME の 2010 年度プログラムに参加する大学院生を募集することになりました。本プロジェクトに参加を希望する方、あるいは関心のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

募集対象:

本 GCOE に参加する北海道大学環境科学院および農学院環境資源学専攻の博士課程院生(来年度に博士課程に進学を希望している修士課程院生を含む)。なお、上記に候補者がいない場合は、現在修士1年の学生、ならびに、修士課程に進学を希望している学部学生についても受け付ける。

募集人数:

1 名(応募者多数の場合は、「これまでの研究経過」、および「今後の研究に関する抱負」を伺った上で、選考します)。候補者が確定次第、締め切ります。

連絡先:

仲岡雅裕(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所)
nakaoka@fsc.hokudai.ac.jp

【GAME(Global Approach by Modular Experiment)とは?】

地球規模で進行する環境変動に対する生物群集の反応を理解するには、環境条件の異なるさまざまな地域で同じデザインの実験を行い、その結果を比較することにより、一般性と特異性を検討する方法(「モジュール実験によるメタ解析」)が有効です。GAME は、このような実験方法により、生物群集のさまざまな特性の一般性・特殊性を解明すること、また、そのような地球規模の視野を持った専門家を育成することを目的として、ドイツ最大の海洋研究所である IFM-GEOMAR (The Leibniz Institute of Marine Sciences at the University of Kiel) が主催して行っている国際研究教育プロジェクトです。

本プログラムには、これまで、ドイツ、イギリス、ポルトガル、日本、香港、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド、チリ、ブラジルなどの諸国の学生が参加してきました。日本では平成 16 年度より東北大学や千葉大学の大学院生、学部生が参加しています。本プロジェクトの詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.ifm-geomar.de/index.php?id=1325&L=1>

【次期プログラム(GAME VIII)の研究課題】

現在、各国の関係者の間で検討中です。

【具体的な実施方法とスケジュール】

GAME は、世界各国(日本を含む)から参加する大学院生がドイツの大学院生と 2 名のチームを組み、それぞれの国(日本)で約 6 ヶ月の実験を行います。その前後に行われるドイツでの講義、実習を含めて 10 ヶ月間(2010 年 4 月～2011 年 1 月)のプロジェクトになります。

・2010 年 4 月:1 ヶ月間にわたり、ドイツ・キール大学(IFM-GEOMAR)において、プロジェク

トに関する事前の講義、実習を受けます(英語)。

・2010年5月～10月:ドイツから派遣される学生とチームを組んで、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所において上記の実験課題に取り組みます。

・2010年11月～2011年1月:IFM-GEOMARに戻り、実験結果の解析および論文執筆、学会発表などを行います。

【経費】

・渡航費およびドイツの滞在費は全額支給されます。また、日本国内の実験期間中は研究経費および生活費の一部がサポートされます。

【研究成果】

GAMEの研究成果については、当事者間で打ち合わせの上、各参加者が修士論文や博士論文の一部として利用することができます。また、全体のメタ解析に参加することにより、NatureやScienceクラスの雑誌への投稿にも挑戦するケースが多いです(実際に投稿するかどうかは、その時の研究成果の質によります)。

【日本の受け入れ教官】

仲岡雅裕(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所)
nakaoka@fsc.hokudai.ac.jp

【ドイツの受け入れ教官】

Prof. Martin Wahl (mwahl@ifm-geomar.de)

Dr. Mark Lenz (mlenz@ifm-geomar.de)

いずれも

Leibniz-Institut fu"r Meereswissenschaften, IFM-GEOMAR
Duesternbrookerweg 20, D- 24105 Kiel, Germany

【参加にあたっての注意事項】

・本プロジェクト参加期間中(2010年4月～2011年1月)は、上記研究課題に専念することになるため、他の研究課題との同時進行はかなり困難なことが予想されます。既に環境科学院および農学院環境資源学専攻において各自の研究課題を進めている大学院生の方は、事前に指導教官と今後の計画についてご相談のうえ、応募ください。

・また、本プロジェクトに関連する課題を博士論文のテーマとすることも可能です(特に、来年度以降、博士課程に進学することを考えている大学院生の方)。

【参考文献】

仲岡雅裕(2008) 気候変動にともなう沿岸生態系の変化—生物群集から考える. シリーズ群集生態学 4: 生態系と群集をむすぶ(大串隆之・近藤倫生・仲岡雅裕編), 京都大学学術出版会, 京都, pp. 179-204